

訪問相談支援という活動—問題解決への道

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

やまなしライフサポートの活動のなかで、最も効果的に継続されてきたものに、2010年1月から毎週木曜日に定期的にかかれるようになった「炊き出し」があります。この炊き出しから派生した活動に、できたてのご馳走をパックに入れてお弁当として届ける「弁当配布」があります。2016年ごろは県内の大きな橋の下や主だった公園にはかなりの数の方々が野宿生活をしておりました。パトロールによって情報を集め、勇気をだして訪問してもお弁当を受け取って貰えないこともありました。しかし、定期的に温かい食べ物を届け、座って世間話をするお付き合いがよい繋がりを生み出しました。その結果、路上生活者の方々の就労支援や年金確保、生活保護受給への道が開かれました。やまなしライフサポートの訪問相談支援の出発点であります。

2016年に甲府市から委託を受けた、生活困窮者自立支援事業業務の中に自立相談支援事業訪問支援があります。福祉事務所および公共職業安定所等の関係機関や生活困窮者に係る関連機関と連携して実施された訪問相談支援の事例。

市内の県営住宅に家賃滞納のまま引きこもる40代後半の男性。同居していたご両親が老衰のため相次いで他界、勤務していた会社も倒産し失業したため、困窮による健康状態の不安がありました。最初の訪問は市役所生活福祉課の地区担当者、保健センターの看護師、ライフサポート中山の3名で、現地集合のかたちで実施されました。表札を確かめた上で、30分間ぐらいベルを押し続けましたがドアは閉ざされたままでした。数回の合同訪問支援の後、やっとのことで家の中に入れてもらい、立ったままで話し合いが持たれました。3名はそれぞれの分野で支援の道を探りながら質問し、本人の希望を確かめようと努めました。座る場所がないほど詰まった一家の荷物、積み上げられたゴミの山と漂う悪臭。世間や親族にも知らせないで、ひたすら隠し続けてきた貧困と孤立の実態を突きつけられたような思いがしました。

当法人の訪問者リストにこの方を加えて、スタッフによる訪問支援活動を続けていましたが、突然本人が市役所に向いてきて生活保護の申請をし、アパートを借りるための緊急連絡先としてライフサポートの中山を希望しているという連絡がありました。当法人として次にくる仕事はアパート探しと引っ越しです。複数の物件を紹介してもらい、本人を車に乗せて下見し本人の希望でアパートを決めました。不可能とされていた一家の荷物とゴミ処理には奇跡的な解決がありました。幸いなことに本人が車の免許を持っていた上に、新居となるアパートと元の住居が近かったので、当法人の軽自動車を貸し、自分で必要な荷物を運び、残ったゴミは県で処分してくれることに決まりました。その後、本人から就労への道が開かれたという嬉しい連絡がありました。

甲府市から依頼された事例で、民生委員の方と協力した訪問相談支援もありました。50代の男性でご両親が他界されたため、荒れ放題の大きな屋敷に一人で生活していました。外から見た家の状態や時々姿を見せるその男性の様子を見て、近所の方が心配し民生委員に相談したようです。年度をまたいだ2名の民生委員の方がその男性を訪問することになったようですが、不安があったので生活福祉課を通してライフサポートの中山が加わる形となりました。

近くのコンビニの駐車場に集合し民生委員の方の案内で現地に向かいました。大きなお屋敷の入り口に座り込んでいたその男性は、長年橋の下で野宿していた方と全く同じような様相でした。健康状態も危機的な状況にあることを直感しました。本人の承諾を得てから私は生活福祉課の係長に電話し、大至急救急車を呼んでもらい、民生委員の方に同行を依頼し、緊急入院してもらいました。

去る3月29日、県内新聞の3面トップ記事で、「引きこもり放置 命の危機」というタイトルが目を引きました。生活困窮者への訪問相談支援から浮かび上がった難問解決への提案であり、訴えでもあります。

2021年度の主な活動実績

2020年4月～2021年3月 人数は延べ数

食料配布(炊出しに替えて)	1,279名(45回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	381泊(41名)
健康相談	1,138名(110回)	生活保護申請	27名(受給実績21名)
路上生活者面談	139名(135回)	就労相談、就労サポート	218名(就労実績23名)
生活保護・年金受給者面談	147名(135回)	見守りパトロール	208名(83回)

特集 訪問支援活動

訪問支援活動とは

やまなしライフサポートの活動は、

- ①炊出し … 毎週木曜日に温かい食事を提供（現在はコロナ禍のため食料配布に切替え）
- ②パトロール … 路上生活者発見のため公園や河川敷を探索
- ③ライフ荘 … 住まいを失った方に無料で衣食住を提供
- ④同行支援 … 病院受診、生活保護申請、年金調査、法テラス相談等
- ⑤就労支援 … ハローワーク同行、履歴書作成や面接の助言、協力企業への紹介等
- ⑥居住支援 … アパート探し、緊急連絡先登録、布団・家財提供等

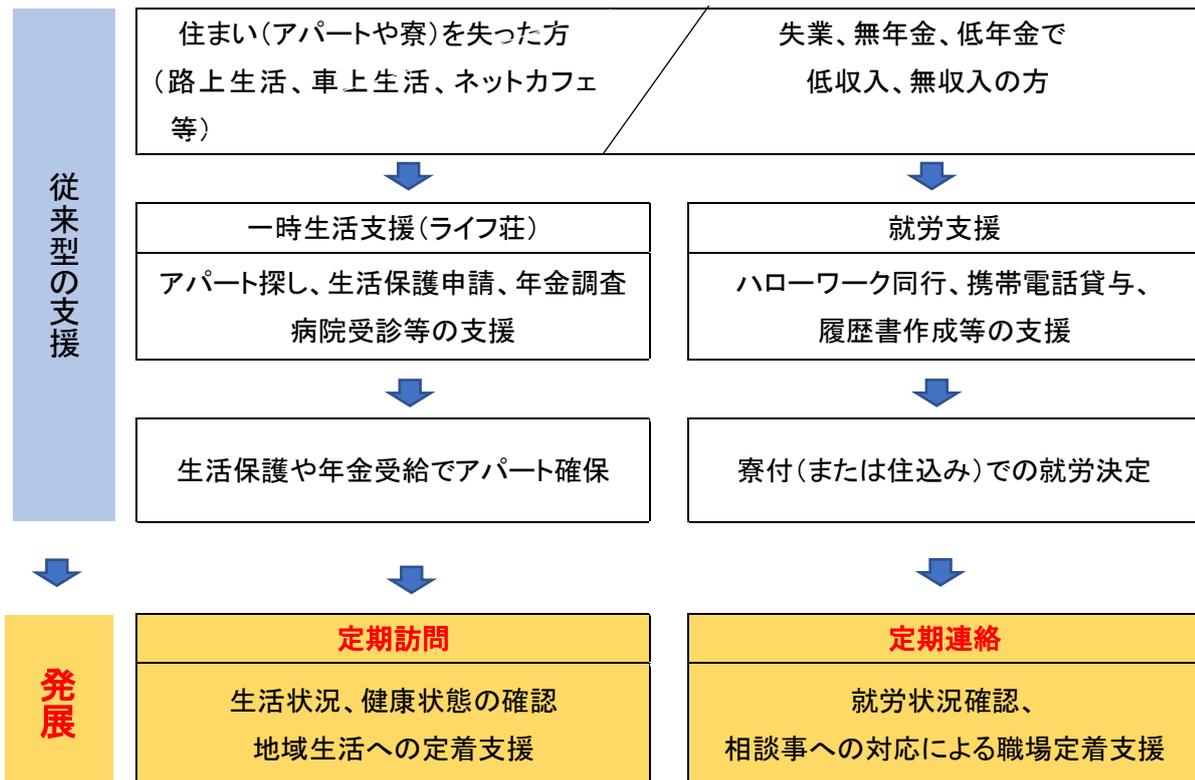
など多岐にわたっています。

これらの活動のベースになっているのは訪問支援（アウトリーチ）です。事務所への来所や電話、メールでの相談対応のみでなく、問題を抱えた人のもとに積極的に出向き、寄り添いながら支援していきます。

また、ライフサポートの支援で生活保護受給や就労が実現し一定の自立を果たした方に対しても、それで支援終了とせず、その後も継続して訪問し、健康状態や生活状況を確認しながら、地域での安定した生活が送れるようフォローしています。

訪問支援には専門的知識が必要になることが多いため、看護師、社会福祉士、キャリアコンサルタント、介護福祉士などの資格を持った職員が対応しています。また生活困窮者には心身の病気や障害を抱えている方が少なくないこともあり、必要に応じて病院、保健所、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター等との連携も行っています。

【訪問支援活動の枠組み】



訪問支援活動の実際

1. 福祉の谷間の人の支援 ～ Iさんの事例

地域の生活から隔絶してしまい、支援情報を入手することもなく福祉からも見えなくなってしまった方が、市民からの通報を機に当法人の訪問支援により福祉サービスにつながり自立生活を取り戻しました。

Iさん(61歳、男性)は以前は仕事をされていましたが、リウマチによる手足の関節硬直のため失業してしまいました。収入も無くなり、家も廃屋のようなところだったので、昼は自宅近くの公園で過ごし、近所の親切な方に食料や小銭をもらって生活していました。

水は雨水を貯めて飲用し、風呂には10年以上も入っていないということでした。

昨年12月に市民から市役所に通報があり、市から情報提供を受けた私たちがその公園を訪問しました。そこには衣服はボロボロ、痩せこけて悪臭を放っているIさんがいました。その後何度も訪問し食料支援を行いながら信頼関係づくりに努めました。成育歴、家族状況、病歴等少しずつ聞き出しながら、福祉サービスにどのように繋げていくかを考えました。

福祉サービスに繋げる第1歩は身体の清潔を取り戻すことです。特にコロナ禍で清潔に対する関心が高い中ではありましたが、入浴を利用できる施設がありません。地域の福祉センターの入浴施設利用も検討しましたがハードルが高く見送らざるを得ませんでした。その後数回の訪

問の後、本人が当法人のシャワー利用や整髪を受け入れてくださり、新しい衣類も提供できたので、ようやく市役所訪問が実現し生活保護の申請に結び付きました。本人の意識も前向きになり、「とんかつが食べたい」など今後の生活への意欲も出てきました。

アパートが決まった段階で市役所福祉課、保健師、地域包括支援センターに当法人も加わりケース会議を開催しました。通院同行、ヘルパー派遣、金銭管理等今後の生活自立に向け検討を加え、各団体の役割分担を決めました。

新しい生活が始まったばかりのIさんに今後も継続して寄り添い、支援を続けていきたいと思います。



Iさんが住んでいた小屋

2. 生活保護受給後の見守り支援 ～ Kさんの事例

Kさん(81歳、男性)は3年前に路上生活をしていたところを発見、その後の炊出し利用を通じて人間関係を深め生活保護につながった方です。

当初は高血圧の持病はあったものの、毎週の炊出しには自転車です30分ほどかけて参加し、空いている時間は図書館通いをする等活動的な生活を送っていました。ところが数カ月過ぎたころからアパートにいたことが多くなり、次第に部屋にはゴミがたまるようになってきました。当法人の看護師が定期訪問をして健康チェックしながら話を聞くと、「片付けようと思うがやる気にならず、もうどうでもいいと思う」と体力と意欲の低下が重なり元気がなく話します。今後のことを聞くと「大丈夫。自分で何とかする。病院はもう行かない」と繰り返すばかりでした。ところがしばらくして訪問すると、「そうだな、ヘルパーさんに来てもらうか。血圧も200以上あるし病院にも行くか」と突然言い出しました。変化の理由を尋ねると「もう、観念した。足腰弱くなってだめだな、看護師さんに任せるよ。」とのことでした。

早速地域包括支援センターに連絡し協力を求めたところ、後日自宅で支援会議が開かれました。参加者はKさん、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、地域包括支援センター、ライフサポートでした。その結果、介護認定を受け、ヘルパー訪問が始まりました。歩行補助機の貸与も受けて病院受診も定期的に行くようになり生活が少しずつ前向きになってきました。

丁度そのころ、同じアパートに住む当法人の支援したFさんが高血圧だったため、血圧計を貸し出していました。ある日看護師がFさんを訪問していたところKさんとバッタリ出会い、Fさんの善意で毎日朝夕Kさんの血圧測定をしてもらうことになりました。後日訪問すると二人の大きな笑い声が聞こえてきました。部屋に入ると膝を突き合わせて談笑しています。部屋からはいつの間にかゴミが消えきれいに掃除されていました。

地域の福祉的な支援に加え、近隣住人との交流も励みになり元気な生活を取り戻した事例です。

コロナ感染症予防策

山梨県からの補助金(地域課題解決のための NPO 活動支援事業費補助金)を活用し、サーマルカメラを購入しました。当法人の入り口で利用者の検温に使用するほか、毎週木曜日に食料配布を行っている会場にも持ち込んで、来場者の検温にも使っています。

また、障害者の就労支援でご協力いただいている山梨クリナーズ(社会福祉法人忠恕会)よりご寄付いただいた次亜塩素酸水を少量スプレー容器に詰め替えて炊出し会場や個別訪問の際に配布しています。



次亜塩素酸水スプレー



食料配布会場で検温

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問い合わせください。

1. 炊出しボランティア

(炊出しは現在休止中のため、再開次第お知らせします)

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)
カトリック甲府教会にて(甲府市中央 2-7-10)
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



炊出しメニューの例
カレーライス、みそ汁、ちくわと大根の煮物、ゆで卵、野菜サラダ、漬物他

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願います。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。